

政治参加における社会的ネットワークの効果に関する考察：結束型と橋渡し型ネットワークの相互作用に着目して

著者	中山 ちなみ
雑誌名	ノートルダム清心女子大学紀要. 外国語・外国文学編, 文化学編, 日本語・日本文学編
巻	41
号	1
ページ	21-39
発行年	2017
URL	http://id.nii.ac.jp/1560/00000004/

政治参加における社会的ネットワークの効果に関する考察 — 結束型と橋渡し型ネットワークの交互作用に着目して —

中山 ちなみ*

Effects of Social Networks in Political Participation :
Focusing on the Interaction of “Bonding” and “Bridging” Networks

Chinami NAKAYAMA

本稿は、社会的ネットワークが政治的態度に及ぼす影響について検討するものである。従来の社会的ネットワーク研究においては、R. パットナムの社会関係資本概念に基づき「結束型」「橋渡し型」という2つのネットワーク形態が指定されている。この両者は、経験的研究のなかで「いずれのネットワーク形態が、社会・政治参加をより促進させるのか」という二者択一的な扱いをされることが多い。しかし、両者は本来的には独立のものであり、それぞれの効果を区分して考える必要がある。さらに、両者の間に交互作用効果を想定することもできる。以上の問題関心のもと、本稿では2015年11月に女子大学生を対象として実施された調査データを用いて実証分析を試みた。

分析の結果、結束型・橋渡し型ネットワークの間には交互作用効果がみられ、先行研究で指摘されているような、橋渡し型が単独の効果として政治参加を促進するという結果は得られなかった。結束型ネットワークにより形成される他者への信頼と、橋渡し型ネットワークが持つ開放的な傾向が組み合わさることで、政治的態度が高められることが示唆された。

なお、本研究はあくまでも試論であり、データと指標の精緻化に課題を残している。これらの問題をクリアにするため、今後さらに適切なデータによる検証が必要であるといえる。

1 はじめに

2015年9月に成立した安全保障関連法をめぐる、各地で反対デモや集会が開催され、多くの人びとが声をあげたことは記憶に新しい。また、原発再稼働問題や基地問題などに反対するデモの報道を見ることも、近年ではめずらしくなくなっている。

これまで、どちらかといえば日本の有権者の政治・社会参加は活発であるとはいえないことが指摘されてきた。しかし、めまぐるしく変動する国際情勢や、深刻化する生活・環境問題、そして先行き不透明な経済不安など、私たちの生活を脅かす多くの問題が山積するなか、日本が進むべき方向を決定する過程に自分たちの声も反映させたいという意識の

キーワード：政治参加，社会関係資本，結束型・橋渡し型

Key Words : political participation, social capital, bonding/bridging

※ 本学文学部現代社会学科

高まりが、人びとをこのような政治参加行動へと向かわせているのかもしれない。

近年の安保法案や原発再稼働問題などへの反対派の活動の特徴としては、第一に、これまで政治的活動の経験が比較的浅いと思われる大学生や主婦たちが主体となっている点が挙げられる¹⁾。また、彼らの活動は Facebook や Twitter 等の SNS を介して全国的な広がりを見せたという点も近年の社会・政治運動の特徴として挙げられるだろう。若年層や女性という、これまで相対的に政治には無関心であるとされてきた層が中心となり、全国的に運動を展開したことが、驚きを伴って受け止められたといえる。

これらの運動で大きな役割を果たしたと考えられるのがネットワークの存在である。ネットワークは個人と個人をつなぎ、さらにはネットワークどうしを結びつけて、多くの人びとを参加へと導くことができる。それゆえに、市民の社会参加や政治参加を促進する要因としてのネットワークの効果が期待されており、日本においてもおおよそ 2000 年代以降、研究成果が蓄積されつつある。なかでも、R. パットナムが提示した「結束型」「橋渡し型」という 2 つのネットワーク形態に注目した実証研究が多くなされている。

本稿では、このパットナムの概念を援用し、人びとが社会・政治参加運動に向かう背景に、ネットワークがどのような影響を及ぼしているのかについての検討をおこなう。これまで対立概念として扱われてきた結束型および橋渡し型ネットワークを独立のものとして位置づけ直すことにより、2 つのネットワーク資源をともに有することが、社会・政治参加の促進効果をより高める可能性を指摘することが本研究のねらいである。

2 社会関係資本概念によるネットワーク研究の概観と本稿の分析視角

2.1 R. パットナムの社会関係資本概念

パットナムは、個人が取り結ぶ私的なネットワークを、公的な領域における社会・政治参加へと導く「資源」としてとらえた。この個人が有する「他者とのつながり」というソフトな資源をパットナムは社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）とよび、これが人びとを社会参加に向かわせることに寄与するという²⁾。パットナムの議論はおおむね以下のように要約できる。

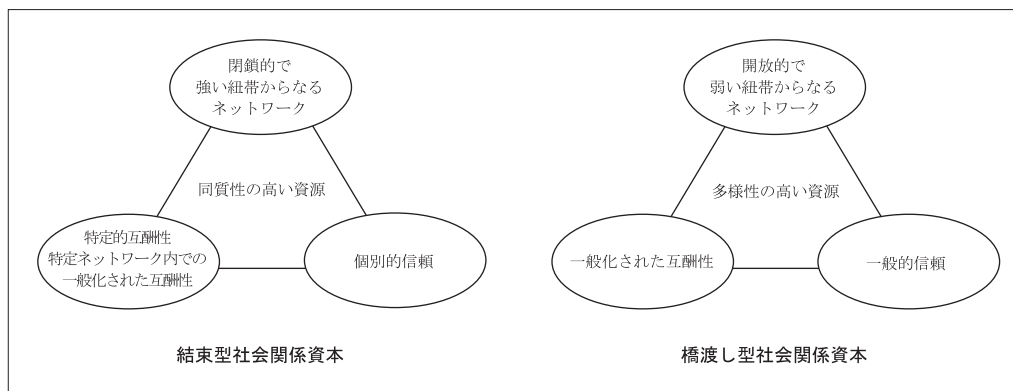
パットナムは社会関係資本を構成する要素として、ネットワーク、互酬性規範、信頼を挙げている。そして、これら 3 つの要素がそれぞれどのような特徴を持っているかを分析することで、コミュニティが「結束型」(bonding) ないし「橋渡し型」(bridging) のどちらの要因をより顕著に持っているかを分類することができるとした (図 1)。

結束型の傾向が強いコミュニティは、同質な人びとのつながりによって形成されている。結束型ネットワークは閉鎖的で強い紐帯を形成しやすい。ここで構築されるのは、個別的・限定的な互酬性規範であり、コミュニティ内の同質な人びととの個別的な信頼である。したがって、メンバー間の結びつきは強い一方、排他的でグループ外には無関心といったネガティブな側面も指摘される。このような同質な人たちばかりに囲まれている結束型の環境では、自分とは異なる意見は熟考のプロセスから排除されるため、結束型ネットワークは民主主義の醸成には寄与しないとされている。

他方、橋渡し型の傾向が強いコミュニティは、異質な人びとを架橋するネットワークを形成する。橋渡し型ネットワークは開放的で空隙がある構造となっており、弱い紐帯が形

成されやすい。互酬性規範や信頼は、コミュニティの枠を超えたより一般化されたものとなる。このようなネットワークにおいては、社会的属性や意見の異なる他者との相互作用の機会が生まれ、積極的社会参加や社会の集成的問題の解決といった民主主義の円滑な運営にとって、ポジティブな効果を持つことが指摘されている。

図1 結束型と橋渡し型の社会関係資本



出典：宮田佳久子，2005『きずなをつなぐメディア』24頁。

2.2 社会関係資本に注目した実証研究

以上のようなパットナムの社会関係資本の議論に基づき、ネットワークが社会参加に及ぼす影響について実証的な研究が進められている。例えば、森岡清志(2011)は、ソーシャル・キャピタルを「パーソナル・ネットワーク量」「地域活動への参加度」「信頼」によって測定し、ソーシャル・キャピタルが高いほど、コミュニティ・モラル、投票行動、住民解決志向が高いという明確な相関があることを見出した。また、針原素子(2012)は、人びとの社会参加を促すのは、結束型と橋渡し型のいずれかのネットワークであるかを検討するために日韓の比較をおこなっており、パーソナル・ネットワークが社会参加および信頼や寛容性などの公共的精神にどのような効果をもたらすのかを分析している。

ただし、針原が指摘するように、結束型ネットワークが市民参加を促進するのか、橋渡し型ネットワークがそれを促進するのかについては、統一的な知見が提出されているわけではない(針原 2012:112-113)。異質な人びとを包摂するネットワークに属することで、人びとは自分とは異なる他者の政治的立場をより認識できるようになり、反対意見に対してより寛容になる。そのような政治的な洗練が政治参加をも促すのであり、異質性を伴う橋渡し型ネットワークこそが民主主義の基礎となるという主張がなされる一方で、橋渡し型ネットワークは、異なる政治的意見に人びとをさらすため、人びとがアンビバレンスを感じ、自分の意見に自信が持てなくなり、また周囲との対立回避の動機も手伝うため、政治参加を妨げるとする D.C. ムッツらに代表されるような主張も存在する。

従来のネットワーク研究における上記のような知見の不安定さは、「結束型か、橋渡し型か」という二者択一的なとらえ方に起因すると思われる。たしかに、「どちらのネットワークが、より民主主義に寄与しうるのか」という議論も必要である。しかしこの両者の関係は、個人の視点に立てば二者択一的なものとはなりえない。日常生活において、個人は結

束型ネットワークにも橋渡し型ネットワークにも属し、その双方から影響を受けるということ想定しないわけにはいかないからである。そして、「結束型も、橋渡し型も」、多様なネットワーク資源を豊かに有しているほうが、社会・政治参加促進効果はより高められるかもしれないのである。「結束型か、橋渡し型か」という二分法的な観点からの分析は、このように個人が複数のネットワークから影響を受けることの効果を見落としかねない。

そこで本稿では、結束型および橋渡し型のネットワークの効果について、「どちらがより有効であるか」という従来のとらえ方ではなく、両者を独立の概念として措定し直すことにより、次節のような分析視角を設定して考察を進めることとする。

2.3 本研究の分析視角

ネットワークの効果が政治参加という側面から論じられる際に、議論の焦点となるのは「橋渡し型」である。政治参加とは、社会の成員にとって望ましい社会を実現するために、成員各人がその意思決定の過程に参加することであり、これは民主主義の根幹をなす行為とあってよい。現代においては多くの場合、社会的属性も利害的関心も異なり、社会の進むべき方向性についても意見を異にする人びとによる議論を経て政治的意思決定がなされる。このことを前提とするならば、異質な他者どうしを架橋するネットワークである「橋渡し型」の持つ効果や可能性に注目と期待が集まるのは必然ともいえる。多様な人びとと出会い、自分とは異なる他者を受容し、ときには対立や衝突を生じながらもメンバー間で調整をおこない、ネットワークを運営していくという体験が、広く外部への関心を向けさせるとともに、有効性感覚をも養うというプロセスは非常によく理解できる。

では、結束型ネットワークは政治参加には寄与しえないのだろうか。ここで形成される「強い紐帯」にもまた、社会・政治参加を促進するための鍵が隠されているのではないだろうか。結束型ネットワークは、同質的な人びとで構成され、目的や関心などを共有できるゆえに、対立も少なく相互理解も容易となる。この居心地の良さに浸り、ネットワークの閉鎖的、排他的な性質が強まるならば、それは社会参加を阻害する要因となりうるであろう。しかし、社会参加促進要件として挙げられる一般的互酬性や一般的信頼は、個別的互酬性や個別的信頼の基盤があってはじめて成り立つものではないかと筆者は考えている。そのためには、強い紐帯で結ばれた相手との個別的な相互作用の体験もまた大きな意味を持つのではないかと考えられる³⁾。

以上のような関心から、本稿では、結束型および橋渡し型ネットワークの単独の効果だけでなく、両者の交互作用効果についても分析をおこなう。各人が有するネットワーク資源は一つだけとは限らず、複数持っていることも少なくないはずである。社会・政治参加の促進にとって、2形態のネットワーク資源が組み合わさることで生じる相乗的な効果があるかどうかについても言及したい⁴⁾。

3 分析に用いるデータと類型の設定

3.1 使用するデータと変数

本稿では調査データを用いた計量分析をとおして、前述の問題を検討していくことにする。分析に用いるのは「大学生の政治・社会参加に関する意識調査」のデータである。こ

の調査は、2015年度「社会調査実習」において、同年11月にノートルダム清心女子大学文学部現代社会学科に在籍する全学生を対象として実施された⁵⁾。調査票の配布数は274名、有効回答数181名、有効回収率66.1%である。

この調査は、本研究の関心を明らかにするために設計されたものではないため、変数の精査が十分にはなされていない。また、上述の問題を検討するならば、調査対象も女子大学生ではなく男女有権者とするのが適切であろう。したがって、本稿で用いるデータや指標には一定の限界があることを断っておく。

この調査票に含まれる変数のうち、今回の分析では、政治参加の規定要因となりうる政治的諸態度のほか、個別的・一般的信頼や他者関係に関する意識と、ネットワークとの関連をみていく。分析は、主として二元配置分散分析を用いる。各個人が有する結束型ネットワーク資源と橋渡し型ネットワーク資源の量をその多寡によって上位・下位の2群に分け、それぞれの資源独自の効果および交互作用効果を確認していくかたちをとる。

各回答者が結束的・橋渡しのネットワーク資源を有する程度は、それぞれ以下のように測定する。

結束型ネットワーク資源尺度は、「現在の生活の中で、同質的な人びととの関係をどの程度築いているか」を測定するものである。この尺度には「自分の育った地域に友人が多くいる」「何でも話せる大学の友人がいる」の2項目および「相談相手の数」を用いる。このうち「自分の育った地域に友人が多くいる」「何でも話せる大学の友人がいる」は4件法で尋ねられているため、「あてはまる」に4点、「あてはまらない」に1点を与える。

「相談相手の数」は、「家族や親戚」「小中学校時代に知り合った人」「高校時代に知り合った人」「大学で知り合った人」「大学外の趣味や教養など、さまざまな活動での知人」「アルバイトで知り合った人」の6種類の相手を挙げ、それぞれの相手と日常生活の中で個人的な話や相談をどの程度するかを5件法で回答を得ている。そのうち「よくする」「ときどきする」の回答を1点、「あまりしない」「ほとんどしない」「全くしない」の回答を0点として、6項目の得点の合計を「相談相手の数」得点とした。これは、結束的なネットワーク資源のチャンネルの量を表すといえる。

以上の3項目で主成分分析をおこない、固有値1以上で因子の抽出を打ち切ると、第1主成分のみが抽出された(分散の説明率53.7%)。この第1主成分得点を結束型ネットワーク資源得点とする。

他方、橋渡し型ネットワーク資源尺度は「現在の生活の中で、多様な人びととの交流をする機会をどの程度有しているか」を測定するものである。この尺度には、「一部の友人より、多方面の友人といろいろ交流するほうだ」「一人の友人と深いつきあいを大事にするというよりは、浅く広くつきあうほうである」の2項目を用いる。ともに4件法で尋ねられており、「あてはまる」に4点、「あてはまらない」に1点を与えて得点化した。

この2項目についても、主成分分析の結果、第1主成分のみが抽出された(分散の説明率80.5%)。この第1主成分得点を橋渡し型ネットワーク資源得点とする。

その他、同様の手続きにより、「政治・社会への関心」「政治知識」「政治的有効性感覚」など、政治参加行動に影響を及ぼすと考えられる各変数についても尺度化をおこなった⁶⁾。

3.2 結束型・橋渡し型ネットワーク資源の基本的性質

結束型および橋渡し型ネットワーク資源が、それ自体として政治参加を促進する効果を持つのかをまず確認しておくことにしよう。表1は、2つのネットワーク資源得点と、政治参加との関連が指摘されている各意識変数との積率相関係数を示したものである。

表1 結束型および橋渡し型ネットワーク資源尺度得点と政治参加関連変数との相関

	結束型	橋渡し型
互酬性規範	0.128 ⁺	-0.113
個別的他者への信頼	0.521 ^{***}	-0.046
一般的他者への信頼	0.206 ^{***}	0.109
政治・社会への関心	0.055	-0.107
政治知識	0.043	0.042
政治参加規範	0.120	-0.095
政治的有効性感覚	0.125 ⁺	0.095
社会運動有効性感覚	0.072	0.038
政治システム・政治家への信頼	0.039	0.070
権威主義的態度	-0.124	0.039
個人主義的志向	-0.001	-0.105

⁺ $p < 0.10$ ^{***} $p < 0.001$

結束型ネットワーク資源との相関がみられたのは、個別的他者・一般的他者への信頼である。とりわけ個別的他者への信頼との相関が強く、結束型ネットワーク資源の多さは個別的他者への信頼を高めるといえる。しかし、「お互い様意識」である互酬性規範との強い相関はみとめられなかった。また、橋渡し型ネットワークは一般的他者への信頼を醸成することが先行研究では指摘されているが、このデータからは確認できなかった。

政治・社会への関心や、政治知識、政治参加規範、政治的有効性感覚といった、政治行動に直結する意識に関しては、いずれのネットワーク資源とも相関はみられない。結束型・橋渡し型のネットワーク資源が豊かであることが、政治参加のための直接の促進要因にはなりえていないことがわかる。

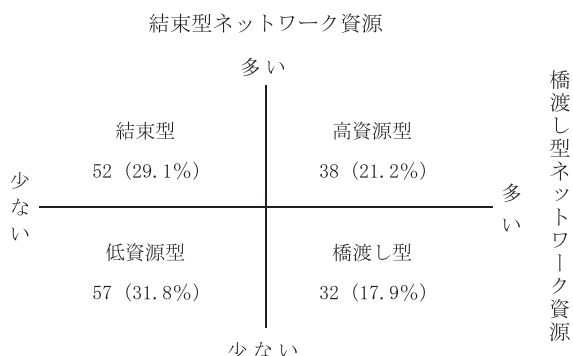
以上のことから、結束型および橋渡し型ネットワーク資源は、いずれも独自の効果としては、政治参加を促す働きは強くないといえそうである。

3.3 4 類型の構成

結束型ネットワーク資源を多く持つ者の中には、橋渡し型ネットワーク資源も多く持つ者もいれば、乏しい者もいる。橋渡し型ネットワーク資源についても同様のことがいえる。そこで、結束型および橋渡し型ネットワーク資源尺度によって測定された各得点の上位群・下位群を組み合わせるにより4類型を作成した。

作成した類型と、実際に各類型に含まれる人数を示したものが図2である。それぞれの類型に比較的偏りなく人が含まれていることから、結束型と橋渡し型は概念的に独立であるだけでなく、経験的にも独立していると考えてよさそうである（結束型と橋渡し型ネットワーク資源得点の相関係数は $r=0.118$, n.s.）。

図2 ネットワーク資源の4類型および各類型に含まれる人数



各類型について、ここでは次のような名称を与える。結束型ネットワーク資源も橋渡し型ネットワーク資源もともに多い者を、社会関係資本を最も多く有するタイプとして「高資源型」と名づける。これに対し、結束型ネットワーク資源のみ多いタイプは「結束型」、橋渡し型ネットワーク資源のみ多いタイプは「橋渡し型」とする。どちらのネットワーク資源も少ないタイプは「低資源型」とよぶことにする。この類型を用いて、次節で結束型および橋渡し型ネットワーク資源の交互作用を検討する。

4 結束型・橋渡し型ネットワーク資源の政治参加への効果

4.1 各類型の一般的傾向の確認

社会・政治参加に関する結束型・橋渡し型の各ネットワーク資源の交互作用効果をみる前に、まず基本的なことをおさえておきたい。設定された類型は、それぞれ独自の特徴を持つものなのか。また、どのような局面において類型ごとの違いが表れるのか。後の分析の基礎となるこれらの点について、最初に確認しておこう。

表2は、結束的關係資源についての認知や、橋渡しの關係構築の志向性の違いについて類型ごとに比較したものである。表中に挙げた項目はすべて4件法で回答されており、1点から4点に得点化されている。平均値が高いほど、その傾向が強いことを意味している。この得点化の方法は、以下の表3・表4についても同様である。

表2からは、結束型ネットワークと橋渡し型ネットワークの双方の資源を持つ「高資源型」は、友人が多く、身近に尊敬できる人がいると感じていることがわかる。「結束型」の得点もそれに次いで高い。逆に、結束的ネットワーク資源が少ない「橋渡し型」と「低資源型」は、身近に頼りになりそうな相手が少ないと感じており、一人で過ごす時間も相対的に多いようである。また、異質な他者と積極的にかかわり、認めようとする橋渡しの志向性は、橋渡し型ネットワーク資源を持つ「高資源型」と「橋渡し型」において強くみられる。

表2 4 類型別にみた結束的關係資源の認知および橋渡し的志向性

		高資源型	結束型	橋渡し型	低資源型	全体	有意確率
結束的關係資源の認知	友達はどちらかというときが多いほうだ	2.82	2.17	2.19	1.89	2.22	.000
	友人は、自分の価値観や考え方をよく理解してくれていると思う	3.47	3.44	2.88	3.07	3.23	.000
	自分には、親身になって相談相手になってくれる人はいないと感じる	1.74	1.60	1.97	2.18	1.88	.001
	自分の周りに尊敬できる人はあまりいない	1.79	2.00	2.22	2.20	2.06	.029
	余暇はほとんど一人で過ごしている	2.68	2.71	3.00	3.34	2.96	.000
	困難が生じたとき、誰かを頼らず一人で解決することが多い	2.42	2.40	2.66	2.63	2.52	.135
橋渡し的志向性	知らない人と知り合いになるチャンスは、できるだけ生かすようにしている	3.09	2.39	3.09	2.39	2.64	.000
	見知らぬ人に対してでも、相手の立場に立って考えるほうだ	3.08	2.96	3.03	2.88	2.97	.268

註) 表中の数値は類型別の平均得点である。数値が高いほど、その項目の傾向が強いことを意味する。

では、もう少し一般的な他者とのかかわり方についてはどうだろうか。同質的な他者との結束、異質な他者の排除、他者とのつきあい方などについて検討したものが、次の表3である。同質性重視の志向性は結束型ネットワーク資源が多い「高資源型」と「結束型」で強いと考えられ、実際に表3においてもそうした傾向があることが示されているが、表からはさらに、有意ではないが、「低資源型」にも同様の傾向がある可能性が見て取れる。ネットワーク資源が少ない彼らだからこそ、現在有している人間関係を守りたいという気持ちが働くのかもしれない。

これに対し、排他的な意識が最も低いのは「橋渡し型」である。表3上段の5項目中、「みんなが顔見知りであるような地域のほうが、そうでない地域よりも住みやすいと思う」以外の4項目で、「橋渡し型」は異質性を受容する傾向をみせている。表2と同様に、多様性を認め、外向きで開放的な志向を持つ「橋渡し型」の特徴が表れているといえる。

また、他者とのつきあい方についてはいずれの項目においても、「低資源型」の得点が最も高い。「低資源型」の他者との関係を最低限にとどめようとする傾向が際立っているといえる。ネットワーク資源が最も乏しいこのタイプの性質を考えれば、当然予想されることである。他方、人とかかわることを面倒がらず、共同作業を厭わないのが「高資源型」

表3 4 類型別にみた他者との一般적かかわり方

		高資源型	結束型	橋渡し型	低資源型	全体	有意確率
同質性重視・異質排除志向	みんなが顔見知りであるような地域のほうが、そうでない地域よりも住みやすいと思う	3.03	2.90	2.84	2.58	2.82	.020
	仕事の楽しさは、仕事の内容より一緒に仕事をしているメンバーによって決まると思う	3.37	3.50	3.38	3.12	3.33	.066
	新しい人間関係を築くよりも、今ある人間関係を維持することを重視したい	2.63	3.08	2.63	2.89	2.84	.006
	興味や関心が自分と同じ人とだけつきあっていたい	2.42	2.40	2.38	2.70	2.50	.158
	価値観や趣味が違う人が自分の友人グループにいと、その人とはあまりかかわりたくないと思う	2.34	2.31	2.19	2.49	2.35	.567
他者とのつきあい方	人とかかわるのは面倒だ	2.32	2.38	2.50	2.86	2.54	.003
	みんなで共同でやるような仕事よりも、一人でこなすような仕事のほうがいい	2.53	2.73	2.91	3.11	2.84	.003
	無駄なことにはできるだけかかわらないようにするのが賢明だ	2.66	2.81	2.66	3.09	2.84	.010
	必要だと感じる人とはつきあいをし、必要だと感じない人とはつきあいをしなくてもいい	2.47	2.56	2.25	2.60	2.50	.224

であることも、予想通りといえる。ただし、無駄なことにはできるだけかわらないようにする、必要だと感じる人とのみつきあうといった意識が、「橋渡し型」において最も低いという点は注目に値する。効率主義的ではない、「無駄かもしれないけれども、かかわってみる」という意識が、同質的なメンバーとの居心地の良い関係の外へと飛び出し、異質な他者ともつながろうとする「橋渡し型」の志向性を支えているといえるのかもしれない。

このように、橋渡し型ネットワーク資源は、多様な他者の存在を認め、自分とは異なる他者とも新たな関係を築いていこうとする志向性を促進させる役割を果たしている。では、結束型ネットワークに属することで醸成されるものは何であろうか。次の表4でこの点を検討したい。

自己効力感に関する2項目はいずれも有意ではないが、自身の存在価値や自信の得点が「結束型」において最も高いという傾向はみられている。同質的な仲間とともに過ごす時間は誤解や衝突が少なく、意見や気持ちが伝わりやすい。自分が相手に理解され、自分もまた相手を理解しているという体験の積み重ねが、安心感や居場所感を生み出し、ひいては自己の効力感につながるのではないかと考えられる。そして、相互理解が容易であることが、同質的なネットワーク内における個別的信頼を形成するのであろう。表4の中段に示したように、結束型資源を持つ2類型で個別的信頼は高くなっており、「橋渡し型」「低資源型」の個別的信頼は総じて低い。

一般的信頼については、明確な傾向は見出しにくい。表4下段の「自分が困っているとき、世の中の多くの人には助けしてくれると思う」の項目では、橋渡し型ネットワーク資源を多く持つ「高資源型」と「橋渡し型」の得点が高い。他方、「この世の中では、人は支えあって生きている」では、「橋渡し型」の得点が最も低く、「結束型」が最も高い。この結果は、橋渡し型のみならず、結束型ネットワーク資源を有することもまた、一般的信頼の形成に寄与しうることを示しているのかもしれない。すなわち、結束型ネットワークにおいて形成された個別的信頼を土台として、それがさらにより一般的な他者への信頼へと広がるというルートも想定することができるのではないだろうか。

従来の見解では、結束型ネットワークは個別的信頼を形成し、橋渡し型ネットワークにおいては一般的信頼が形成されるとされてきた。しかし、身近な相手と相互理解できたという体験や、困ったときに助けってもらった／助けてあげたという互酬性を伴う「お互い様」の体験を経ずして、一足とびに一般的他者への信頼を築くことは難しいであろう。この表からは、異質な他者ともつながろうとする志向性だけでは一般的信頼は形成されにくいことが示唆されたといえる。先の表1において、橋渡し型ネットワーク資源得点が個別的信頼・一般的信頼のいずれとも相関を示さなかった点についても、同様の説明ができるであろう。

表4 4類型別にみた自己効力感、個別的信頼および一般的信頼

		高資源型	結束型	橋渡し型	低資源型	全体	有意確率
自己効力感	自分にも何か存在している価値があると思える	2.87	2.88	2.63	2.67	2.77	.181
	やれば何かできるというそんな自信がある	2.87	3.02	2.88	2.70	2.86	.313
個別的信頼	信頼できる友人がいる	3.68	3.81	3.13	3.32	3.50	.000
	友人は、自分が困ったときに助けしてくれる	3.53	3.58	3.19	3.16	3.36	.001
一般的信頼	自分が困っているとき、世の中の多くの人には助けしてくれると思う	2.58	2.40	2.53	2.25	2.41	.049
	この世の中では、人は支えあって生きている	2.87	3.02	2.66	2.89	2.88	.073

以上、他者関係に関する変数を中心に、結束型・橋渡し型のネットワーク資源の多寡に基づいて分類した4つの類型ごとの特徴をみてきた。ここまでの分析結果は、先行研究の知見とおおむね合致するといえる。例えば、いずれのネットワーク資源も多く持たない「低資源型」は、基本的に一人で過ごすことが多く、他者と積極的にかかわろうとしない。彼らには、みんなで共同で仕事をするよりも一人であることを好む傾向もみられた。また、結束型ネットワーク資源を多く持つ「高資源型」「結束型」は、身近に信頼できる相手がいると感じており、同質性の高い者どうしの関係を維持することを望んでいる。このような身近な他者との良好な関係は、仲間との個別的信頼を高め、さらには一般的他者への信頼を構築する契機となりうる。ただし、「結束型」には、異質な他者との関係を避けようとする排他性、閉鎖性もみられた点も指摘しておかなければならない。

一方、橋渡し型ネットワーク資源を多く持つ「高資源型」および「橋渡し型」は、他者の多様性を認め、異質な者ともかかわろうとする開放的な志向性を有していることが明らかとなった。既存の人間関係の枠内にとどまらず、新たな関係を構築しようとする積極性もみられる。社会・政治参加を促進させる要因として期待される橋渡し型の志向性のポジティブな側面が見出されたといえる。

このように、本研究のデータにおいても、従来のネットワーク研究で指摘されてきた知見とほぼ同様の結果が示されたとみなすことができる。このことから、前節で作成した2つのネットワーク資源尺度は、分析の指標としてある程度妥当といえるであろう。

4.2 政治的態度の差異

本稿のデータおよび指標がある程度妥当であることは確認された。では、本研究の関心である、政治参加における結束型および橋渡し型ネットワークの相乗効果についての検討に移ることにしよう⁷⁾。ここでは、結束型・橋渡し型ネットワークは本来独立であるという前提に基づき、二元配置分散分析をおこなう。すなわち、結束型ネットワーク資源と橋渡し型ネットワーク資源を単独の効果としてとらえるのではなく、両者が組み合わさることによる効果を明らかにするため、交互作用に着目して考察を進めることとする。

表5および図3・図4は、政治知識の獲得に関する2項目についての類型ごとの比較の結果である⁸⁾。「政治についての知識がないと恥ずかしい」の項目では、結束型・橋渡し型双方のネットワーク資源を持つ「高資源型」の値は高いのに対し、結束型資源を持たない「橋渡し型」の値は4類型の中で最も低い。「政治について人より詳しいほうだ」についても、有意ではないが同様の傾向がみられ、「高資源型」の値は高いのに対し、「橋渡し型」は4類型の中で最も低くなっている。このことから、橋渡し型ネットワーク資源を多く有する者の中でも、結束型ネットワーク資源を持つかどうかで大きな違いがあることが指摘できる。

このことは、結束型・橋渡し型それぞれのネットワークが単体としての効果を持つというよりも、両者が組み合わさったことが効果を持つことを意味している。橋渡し型ネットワーク資源のみを有しているだけでは、政治に対する知識の獲得姿勢は生まれてこない。そこに結束型ネットワーク資源という土台があってはじめて、そうした姿勢がみられるようになるのではないだろうか。

表5 類型ごとの政治知識獲得に関する態度の比較（平均値の差）

		結束低	結束高	全体			F値	有意確率
政治についての知識がないと恥ずかしい	橋渡し低	3.32	3.13	3.23	主効果	結束	.025	.874
	橋渡し高	2.94	3.26	3.11		橋渡し	1.199	.275
	全体	3.18	3.19	3.18	2次交互作用	5.699	.018	
					モデル	2.302	.079	
		結束低	結束高	全体			F値	有意確率
政治について人より詳しいほうだ	橋渡し低	1.89	1.85	1.87	主効果	結束	.420	.518
	橋渡し高	1.78	2.03	1.91		橋渡し	.136	.713
	全体	1.85	1.92	1.89	2次交互作用	1.985	.161	
					モデル	.858	.464	

図3 政治についての知識がないと恥ずかしい（標準得点）

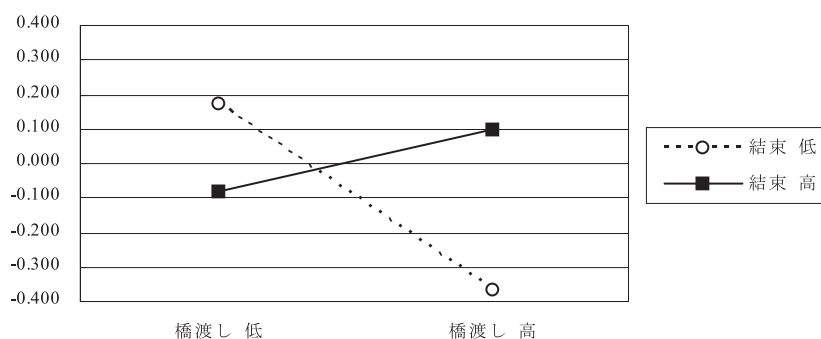
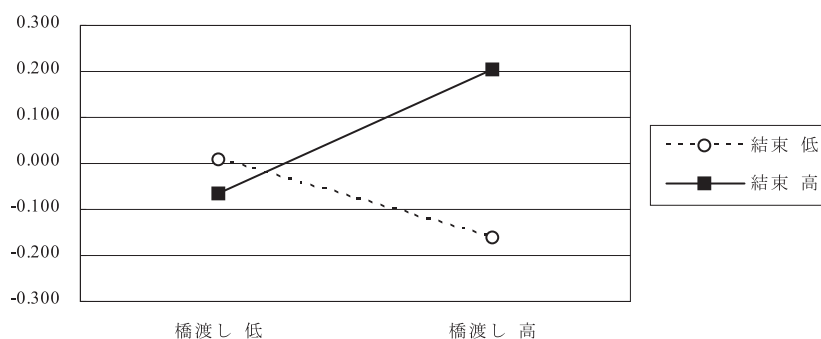


図4 政治について人より詳しいほうだ（標準得点）



次の表6および図5～図7は、政治参加規範、政治的有効性感覚、委任志向の比較である。「国民は、個人生活よりも国や社会のことにもっと目を向けるべきだ」「自分の一票で選挙結果は変わらないと思う」については、「高資源型」と「橋渡し型」は好対照をなしており、「橋渡し型」は政治参加規範も政治的有効性感覚もともに最も低い。また「みんなで議論するよりも、有能な指導者にまかせたほうが政治はうまくいくものだ」については、この傾向が最も強いのは「低資本型」であるが、「橋渡し型」はそれに次いで高い。

ここでみられている傾向も、先の表5および図3・図4と類似したものであるといえる。橋渡し型ネットワーク資源のみを有していても、十分な政治参加の基盤を形成することは難しい。政治に対する積極的な姿勢は、結束型ネットワーク資源の土台に橋渡し型ネットワーク資源が加わることによって、はじめて醸成されるのではないだろうか。

表6 類型ごとの政治的諸態度の比較（平均値の差）

		結束低	結束高	全体			F値	有意確率
国民は、個人生活よりも国や社会のことにもっと目を向けるべきだ	橋渡し低	2.89	2.73	2.82	主効果	結束	.031	.861
	橋渡し高	2.75	3.05	2.91		橋渡し	.851	.358
	全体	2.84	2.87	2.85	2次交互作用		4.956	.027
					モデル		1.954	.123
		結束低	結束高	全体			F値	有意確率
自分の一票で選挙結果は変わらないと思う	橋渡し低	2.63	2.75	2.69	主効果	結束	.573	.450
	橋渡し高	2.84	2.42	2.61		橋渡し	.292	.589
	全体	2.71	2.61	2.66	2次交互作用		4.662	.032
					モデル		1.861	.138
		結束低	結束高	全体			F値	有意確率
みんなで議論するよりも有能な指導者にまかせたほうが政治はうまくいくものだ	橋渡し低	2.93	2.83	2.88	主効果	結束	6.322	.013
	橋渡し高	2.69	3.13	2.93		橋渡し	.629	.429
	全体	2.84	2.96	2.90	2次交互作用		.931	.336
					モデル		2.720	.046

図5 国民は、個人生活よりも国や社会のことにもっと目を向けるべきだ（標準得点）

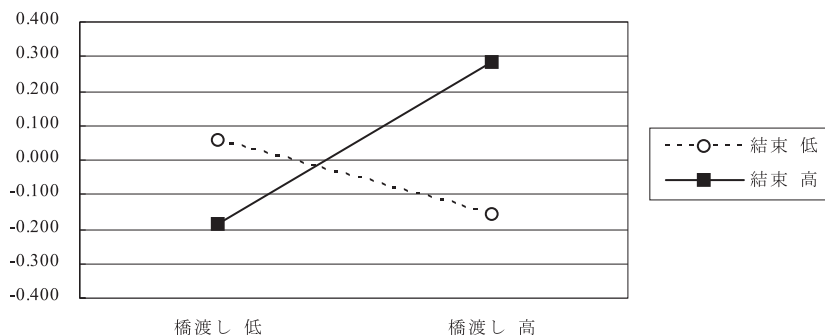


図6 自分の一票で選挙結果は変わらないと思う（標準得点）

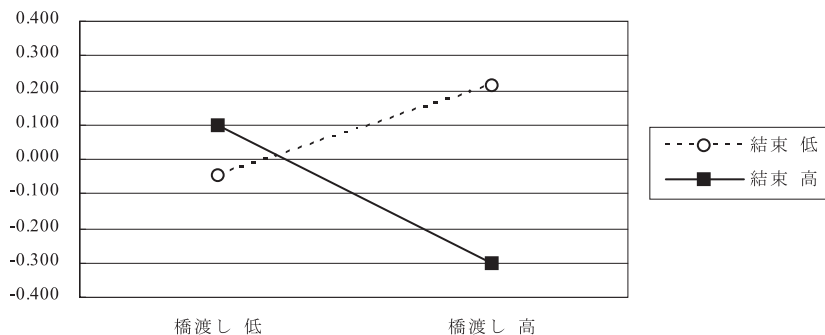
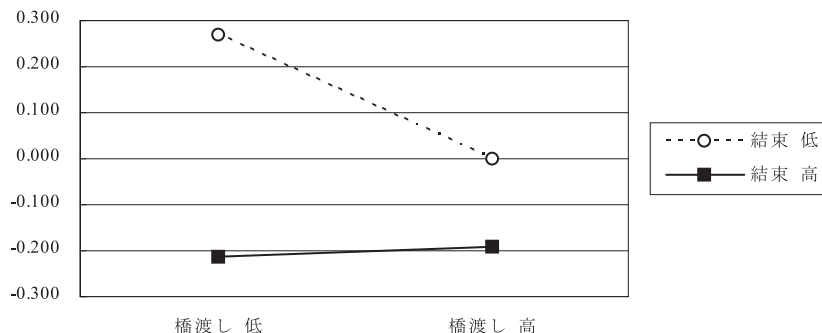


図7 みんなで議論するよりも、有能な指導者にまかせたほうが政治はうまくいくものだ（標準得点）



4.3 「高資源型」「橋渡し型」の精神的背景の違い

橋渡し型ネットワーク資源を豊かに持つ「高資源型」および「橋渡し型」は、異質な他者どうしを架橋する開放的な志向性を有している。多様な他者の存在を認めることができ、積極的に他者とかかわる意欲を強く持つことは、社会・政治参加への第一歩を踏み出すために必要な資質である。しかしながら、政治的態度に関しては結束型ネットワーク資源との間に交互作用がある。「橋渡し型」は人とつながろうとする意欲を持っていながら、いざ政治参加の局面に対峙すると、ある種の危うさを垣間見せる。彼らの政治知識獲得や政治参加への意欲は相対的に低く、おまかせ主義の態度もみられるなど、「橋渡し型」の立つ基盤は決して安定したものではなかった。

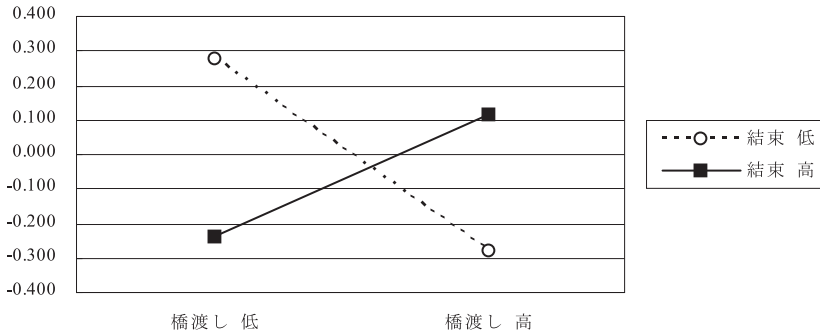
表3でみられたように、「橋渡し型」は4つの類型の中で他者とかかわろうとする意欲が最も強い。単純に考えれば、「橋渡し型」が社会・政治参加に対しても最も意欲的であってもよいはずである。なぜ「橋渡し型」と「高資本型」との間には違いが生じるのであろうか。

この点を検討するために、もう少し詳しく両者の精神的背景の違いについて探ってみることにしよう。まず、表7および図8は、「人から協力を求められても、自分の利益にならないことには協力したくない」という意識を比較したものであり、ここでも交互作用が確認できる。「自分の利益にならないことには協力したくない」に最も「あてはまらない」のは「橋渡し型」である。すなわち、「橋渡し型」は「相手のためになるのならば協力を惜しまない」気持ちが強いことがわかる。彼らの利益を考慮することなく協力の姿勢を示そうとする態度は、人づきあいの際の打算的な意識が相対的に希薄であるという先の分析で確認された特徴とも合致する。

表7 「人から協力を求められても、自分の利益にならないことには協力したくない」の類型ごとの比較（平均値の差）

	結束低	結束高	全体		F値	有意確率	
橋渡し低	2.39	2.00	2.20	主効果	結束	1.212	.273
橋渡し高	1.97	2.26	2.13		橋渡し	.338	.562
全体	2.24	2.11	2.17	2次交互作用		9.150	.003
				モデル		3.596	.015

図8 人から協力を求められても、自分の利益にならないことには協力がたくない（標準得点）

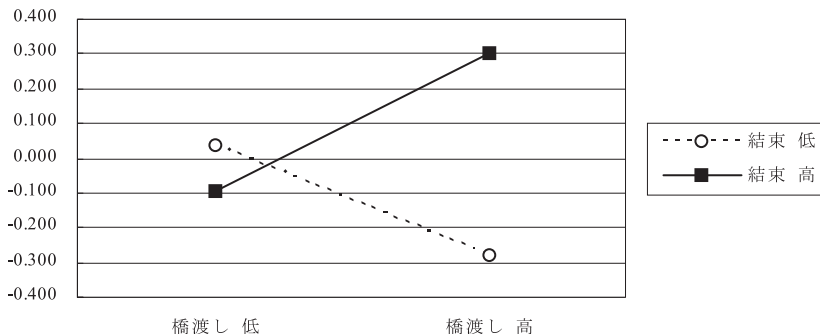


しかしその反面、「橋渡し型」には次のような側面も見出される。表8・図9は「道に迷っている人など見知らぬ人が困っているとき、助けることができる」についての分散分析結果および標準得点によるグラフである。上に掲載した「人から協力を求められても、自分の利益にならないことには協力がたくない」に関しては、最も協力的な姿勢を示すかにもえた「橋渡し型」であるが、彼らは見知らぬ人が困っているときには助けることをしようとしな。見知らぬ困っている人を最も助けることができるのは「高資源型」である。橋渡し型ネットワーク資源を持たない「結束型」と「低資本型」の値はどちらも平均程度であることをふまえると、この両者の結果は「橋渡し型」「高資源型」それぞれの特徴を顕著に表しているのではないかと考えられる。

表8 「道に迷っている人など見知らぬ人が困っているとき、助けることができる」の類型ごとの比較（平均値の差）

	結束低	結束高	全体		F値	有意確率
橋渡し低	2.93	2.83	2.88	主効果	.927	.337
橋渡し高	2.69	3.13	2.93			
全体	2.84	2.96	2.90	2次交互作用	5.421	.021
				モデル	2.172	.093

図9 道に迷っている人など見知らぬ人が困っているとき、助けることができる（標準得点）



同じように豊かな橋渡し型ネットワーク資源を持ち、ともに他者とつながる意欲が強い高資源型と橋渡し型の間でこのような差異が生じるのは、「他者とかかわる」ことの意味づけが異なっているからであると考えられる。例えば、表9および図10・図11をみてみよう。「将来のことを考えるよりも、今どれだけ楽しく生活するかを考えるほうが重要だ」の比較からは、「橋渡し型」が、きわめて現在志向の持ち主であることが浮かび上がってくる。「橋渡し型」はたしかに他者とのつながりを求めている。しかしそのつながりは、その場その場の楽しいやりとりを交わすことであり、彼らの中に、将来を見据えてじっくりと関係を構築していこうとする志向性を見出すことは難しい。「橋渡し型」が、お祭りやイベント時にみんなで楽しく盛り上がるのが他のどの類型よりも「好き」であることも、「今そのときの楽しさ」を重視したいという意識の表れと読み取ることができる。

「橋渡し型」にとっての「つながり」とは、「いま」を楽しむためのものであるのかもしれない。だからこそ彼らは、自分に必要な相手であるかどうかを気にすることなく、多様な他者の存在を認め、新しい出会いに対して積極的になれるのであろう。ただしそれは、裏を返せば、先のことは考えないつきあいということである。そのような長期的展望を欠いた「つながり」は、他者とじっくりかかわり、信頼や互酬性を伴う関係を構築する契機とはなりえない。結束的な関係基盤を持たぬがゆえの「橋渡し型」の限界は、この点にあるといえるのではないだろうか。

表9 類型ごとの現在志向の比較（平均値の差）

				結束低	結束高	全体			F値	有意確率
将来のことを考えるよりも、 今どれだけ楽しく生活する かを考えるほうが重要だ	橋渡し低			2.25	2.41	2.33	主効果	結束	.068	.795
	橋渡し高			2.56	2.24	2.39		橋渡し	.259	.612
	全体			2.36	2.34	2.35		2次交互作用	4.175	.043
							モデル		1.495	.218
				結束低	結束高	全体			F値	有意確率
お祭りやイベントなどに出 かけて、みんなでわいわい盛 り上がるのが好きだ	橋渡し低			2.63	2.75	2.69	主効果	結束	.573	.450
	橋渡し高			2.84	2.42	2.61		橋渡し	.292	.589
	全体			2.71	2.61	2.66		2次交互作用	4.662	.032
							モデル		1.861	.138

図10 将来のことを考えるよりも、今どれだけ楽しく生活するかを考えるほうが重要だ（標準得点）

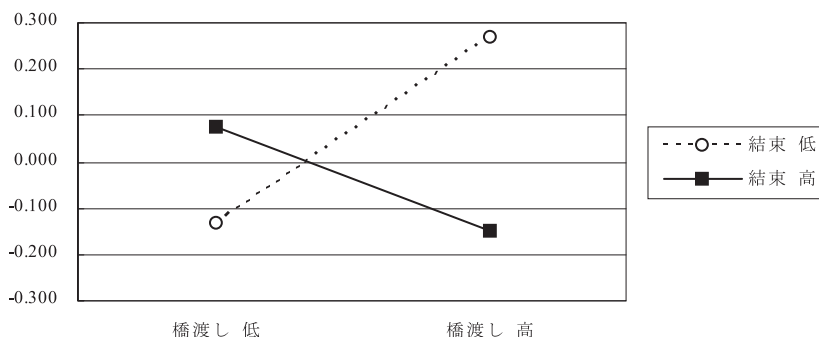
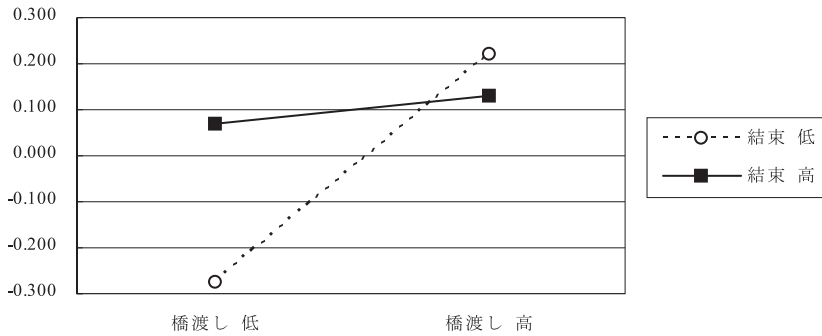


図 11 お祭りやイベントなどに出かけて、みんなでわいわい盛り上がるのが好きだ (標準得点)



4 おわりに

本稿では、パットナムの社会関係資本の概念に基づき、結束型ネットワークと橋渡し型ネットワークが政治参加に及ぼす影響について分析をおこなった。具体的には、「結束型と橋渡し型のどちらがより有効であるか」という二分法的な観点からではなく、両者が組み合わさることによってどのような効果が生じるのかという交互作用に着目した分析を試みた。

分析の結果から示された可能性としては、以下のようなものがある。

- (1) 結束型ネットワークと橋渡し型ネットワークの効果は独立している。
- (2) 結束型ネットワーク資源を有することで、個別的互酬性、個別的信頼が高められ、そのことが自己効力感をも高めると考えられる。個別的信頼の高さが一般的信頼の形成へつながる。
- (3) 橋渡し型ネットワーク資源を有する者は、既存の関係にとどまらず、多様な他者と積極的につながろうとする志向性を持つ。
- (4) 結束型および橋渡し型ネットワークは、政治的態度に対して交互作用効果を示す。

異質で多様な他者どうしを結びつけ、開放的な性格を持つ橋渡し型ネットワークには、社会・政治参加へと人びとを向かわせる促進要因となることが期待されている。しかし、結束型資源を持たない「橋渡し型」においては、その期待されるネットワーク効果が十分に機能しない可能性がある。なぜなら、橋渡し型ネットワークのみでは他者への信頼を育むことは難しく、社会参加のための基盤を醸成するまでには至らないと考えられるからである。

他者への信頼の形成を担っているのが結束型ネットワークであることは間違いなさそうである。ただし「橋渡し型ではなく、結束型が重要だ」といった二者択一的なとらえ方は妥当ではない。そうではなく、まずは結束型ネットワークを築き、それを土台としてさらに開放的なネットワークを展開することが求められるのである。各個人がそれぞれに信頼できる他者とともにコミュニティを形成すること、同時に橋渡しの志向性を高めていくことが、社会・政治参加にとって、さらには真の連帯にとっての課題といえるのではないだろうか。

なお、今回の分析には限界があることにも留意する必要がある。第一に、分析に用いたデータが女子大学生を対象としたものであること、第二に、既存のデータを用いたため質問項目の精査ができず、指標に問題があることである。したがって、本研究はあくまで試論にすぎない。とはいえ、上記の知見はネットワーク研究に新たな視点を加えることができたのではないかと筆者は考えている。今後は、データおよび指標の問題をより精緻化したうえで、さらなる分析を試みたい。

註

- 1) 例えば「SEALDs」や「安保関連法に反対するママの会」などが挙げられる。
- 2) 社会関係資本ないしソーシャル・キャピタルという概念自体は、パットナム以前から取り上げられており、立場によりその意味するところも異なっている。従来議論をレビューし、多義的な用法の位置づけを試みたものとして、例えば、宮田（2005）、森岡（2011）の整理がある。
- 3) 一般的互酬性規範や一般的信頼がいかなる過程を経て形成されるのかという点に関しても、今後より詳細な分析が必要であろう。結束型ネットワークにおいて個別的互酬性規範・信頼が、橋渡し型ネットワークにおいて一般的互酬性規範・信頼が優勢となるというパットナムの図式は、経験的には十分には検証されておらず、これを前提とすることは避けねばならない。そのため筆者は、ネットワークと互酬性規範・信頼を切り離して考え、ネットワークを中心に検討する立場をとる。すなわち、結束型・橋渡し型ネットワークのそれぞれの独自効果として、そして双方の相乗効果として、互酬性規範や信頼がいかに形成されるのかを個別にみていくことにより、成熟した民主主義社会への寄与が期待される一般的互酬性規範や一般的信頼の形成過程を分析することが必要であると思われる。
- 4) なお、現代においては、SNS等のオンライン・コミュニティにおけるネットワークの占める位置も大きく、ネット上で形成されるネットワークについても考慮する必要がある。例えば、インターネットによる市民参加活動においてオンライン・コミュニティの果たしうる効果、役割について考察した藤原（2013）の研究などは、その一例といえる。ただし、インターネットを介したネットワークは、現実世界のネットワークとは異なる側面も考慮しなければならないため、本稿ではオンライン上のネットワークについては言及しない。
- 5) 調査票の配布が始まった直後の2015年11月13日、パリで同時多発テロが起こった。社会参加や社会問題への関心をテーマとする調査であったため、事件の報道に接する以前とその後では回答者の意識に差が生じ、回答に影響が出ることが懸念されたが、テロ事件の前後の回答の比較から差はないと判断されたため、両者を区別せず全回答を分析対象としている。
- 6) 先行研究により政治参加行動と関連があることが指摘されている意識変数についても、2つのネットワーク資源尺度構成と同様の手続きで得点化をおこなった。各変数の尺度構成に用いた項目と、主成分分析で抽出された第1主成分の分散の説明率は以下の通りである。なお、互酬性については適切な質問項目がなかったため、個別的互酬性規範と一般的互酬性規範を区別していない。

・互酬性規範

「国民は、個人生活よりも国や社会のことにもっと目を向けるべきだ」「現在の生活が多少不便になっても、環境や自然を大切にすべきだ」「豊かな人からの税金を増やしても、政府は恵まれない人への福祉を充実させるべきだ」「今の世の中では、他人のために一生懸命何かすることはばかげている（反転項目）」(35.3%)

- ・ 個別的他者への信頼
「信頼できる友人がいる」「友人は、自分の価値観や考え方をよく理解してくれていると思う」「友人は、自分が困ったときに助けてくれる」「自分のことをよく理解してくれている人がある」(70.3%)
 - ・ 一般的他者への信頼
「世の中のほとんどの人は信頼できる」「みんな自分のことで頭がいっぱいなので、まじめに社会のことを考えている人はほとんどいない(反転項目)」「この世の中では、人は支えあって生きている」「世の中には自分の利益のことだけを考えている人が多い(反転項目)」「自分が困っているとき、世の中の多くの人は助けてくれると思う」(41.8%)
 - ・ 政治・社会への関心
「政治について強い関心を持っている」「社会問題に関するニュース等には関心があるほうだ」「政治上の出来事に関心があるほうだ」(74.7%)
 - ・ 政治知識
「政治について人より詳しいほうだ」「政治について自分の意見を持っている」(85.1%)
 - ・ 政治参加規範
「国民の意見を政治に反映させるために投票を行うことは大切だ」「政治に参加することは大切だ」「投票することは、社会的な役割を果たすことだ」「社会の一員として、政治に関心を持つべきだ」「選挙に行くことは有権者の義務である」(52.6%)
 - ・ 政治的有効性感覚
「一人一人の投票は政治に大きな影響を与えている」「選挙の結果や人びとの政治的な諸活動は、国や自治体の政治に大きな影響を与えている」「自分の一票で選挙結果は変わらないと思う(反転項目)」「選挙の時、自分の投票が政治に影響を与える」「今の政治に国民の意見は十分に反映されている」(47.0%)
 - ・ 社会運動有効性感覚
「一般の人びとがデモをすることは政治に影響を与える」「一般の人びとが政治への意見をインターネットで表明することは、政治に影響を与える」(71.2%)
 - ・ 政治システム・政治家への信頼
「政治家は国民に対する責任を十分に果たしている」「私のような一般の市民が考えていることは、政治を行う人はあまり気にかけていない(反転項目)」「どんな政党が政権を握っても、政党は信頼できない(反転項目)」「よいと思える政治家がいない(反転項目)」(43.3%)
 - ・ 権威主義的態度
「社会の問題についてはそれぞれの専門家にまかせておくのが一番よい」「世の中の動きや社会の仕組みなどは、自分にとってはどうでもよいことだ」「みんなで議論するよりも、有能な指導者にまかせたほうが政治はうまくいくものだ」(57.4%)
 - ・ 個人主義的志向
「法律に違反さえしなければ、あとは個人の自由だ」「成功するためならば、多少のルール違反は許される」「他人の迷惑にさえならなければ、自分の好きなことをやってもよい」(55.1%)
- 7) 政治参加の規定要因に関する研究は、政治社会学を中心に多くの蓄積があり、政治参加モデルとして、政治的関心、政治的有効性感覚、政治システムへの信頼などの変数による説明がなされている。また、これらの諸変数とネットワークとの関連も指摘されている。例えば、武田(2013)は、ネットワークという資源を持つことが、なぜ政治参加を促進させるのかという点についてパス解析を用いた分析を試み、集団参加による連帯体験が政治的有効性感覚を高め、さらに政治参加意欲を高める効果を持つことを明

らかにしている。

- 8) 表5以降の分析においては、いずれの項目も4件法による回答を「あてはまる」に4点、「あてはまらない」に1点を与えて得点化している。

引用文献

- 藤原広美, 2013「ネット時代の積極的市民参加 (civic engagement) : 日韓比較調査 —— 社会関係資本の形成の違いからの考察 ——」『立命館産業社会論集』49-2:119-136.
- 針原素子, 2012「社会ネットワークが社会参加に及ぼす影響 —— 日韓比較調査から ——」『東京女子大学紀要論集』62(2):111-130.
- 宮田加久子, 2005『きずなをつなぐメディア——ネット時代の社会関係資本 ——』NTT出版.
- 森岡清志, 2011「ソーシャル・キャピタルの集合的効果」『放送大学研究年報』29:1-11.
- 武田祐佳, 2013「政治参加における集団参加がもつ意味 —— 政治的有効性感覚とネットワークの広がりに着目して ——」『奈良女子大学社会学論集』20:41-52.